

広報さとる



発行日:2026年1月28日(NO.044) 発行所:トヨタ自動車労働組合
発行人:飯田智士 編集人:井出さとる 印刷所:(株)トヨタエンタプライズ

令和7年 12月定例 会を終えて

寒さが厳しくなってきました。12月定例会は、一年の締めくりにふさわしく、これからの裾野市議会の「土台」を決める、熱い議論と決定が行われました。

「議員の数はこのままでいいの?」「もし議員が逮捕されたら給料はどうなるの?」そんな、ちょっと聞きづらいけれど、うやむやにはしてはいけないテーマに真正面から切り込みました。今回のポイントを「さとる流」に解説します!

未来の裾野市議会はどうあるべき? 「議会のカタチ」と「議員のケジメ」

これまで2年近くかけて議論を重ねてきた「議会のあり方検討委員会」が、ついに最終報告を迎えました。最大の焦点は、「議員定数(現在19人)」についてです。

■市民の声は真っ二つ! アンケート結果の衝撃

「人口が減っているんだから、議員も減らすべきでは?」「いやいや、多様な意見を吸い上げるには人数が必要だ!」

議会内でも意見が割れる中、今回は519名の市民の皆さまにご協力いただき、アンケートを実施しました。その結果は……

- 現状維持(19人)派: 約37%
- 減らすべき派: 約36%
- 増やした方が良い派: 約5%
- わからない: 約22%

「現状維持」と「減らすべき」がほぼ拮抗するという結果に! 市民の皆さんの迷いや、「数よりも質が大事なんじゃないか?」という本質的な問いかけが聞こえてくるようで、今の議会に対する「もっと効率的に働けるはずだ」という厳しい叱咤激励として、

重く受け止めなければなりません。

■議員間討論の末、出した答え

このアンケート結果を踏まえ、議会内では最終的な議員間討論が行われました。「市民の半数近くが削減を求めている現実を見るべきだ」という意見と、「多様な市民の声を市政に届けるためには、これ以上減らすと委員会機能などが低下し、チェック機能が弱まる」という意見が激しくぶつかり合いました。

議論の結果、最終的には多数決により「現状維持(定数19人)」とすることが決定しました。

■「数は変えない」からこそ、「質」を変える

この決定をした以上、裾野市議会は「19人いるからこそできる仕事」を証明しなくてはなりません。今回の「現状維持」という結論は、裾野市議会議員一人ひとりに対し、「1人当たりのパフォーマンスをもっと上げろ」「市民に見える成果を出せ」という、これまで以上に重い十字架を背負う選択でもあります。



「長期欠席したら報酬停止」当たり前をルールに。

これまで裾野市議会には、議員が長期欠席した際の議員報酬に関する明確な規定がありませんでした。「働いていないのに、税金から議員報酬が出るのはおかしい!」働く仲間の感覚からすれば、これは当然の声です。

そこで今回、「議員が長期欠席した場合、期間に応じて議員報酬の支給を差し止める」という条例改正案が提出され可決しました。信頼される議会であるために、まずは自分たちの襟を正す。厳しいようですが、これは市民の代表として最低限の「ケジメ」です。

スタートアップ支援&こども園、動いています!

未来の裾野市を作るための「人づくり」「仕事づくり」についても、重要な条例や予算が決まりました。

■認定こども園で「預けやすさ」と「安心」を両立

今回、「裾野市立幼保連携型認定こども園条例」などが制定されました。これは、幼稚園と保育園の良いところを合わせた「認定こども園」の運営ルールを決めるものです。委員会では、特に働く保護者の皆さんが気になるポイントについて、突っ込んだ質疑が行われました。

- 延長保育はどうなる? 「仕事のお迎え、間に合うかな?」という不安に対し、市側からは「現行の午後6時15分までの開園時間の範囲内で実施していく」とのことです。
- 先生の数に足りる? 乳児などの通園支援において、「人手不足で安全がおろそかにならないか?」という点も確認。市側は「実際の配置は2名以上の体制を維持する」とのことです。

■スタートアップ(起業)支援

市職員の「時間外勤務手当(残業代)」の増額補正について審査した際、「スタートアップ(起業)系の事業が増えている」ことが判明しました。

これは、裾野市から新しいビジネスを生み出そうと、担当職員がそれだけ熱心に奔走している証拠でもあります。新しい挑戦者が集まる街には、活気が生まれます。職員の頑張りを適正に評価しつつ、その熱意がしっかりと「地域経済の活性化」という結果につながるよう、議員として応援&チェックしていきます!

編集後記

■「分かりやすさ」への挑戦は続く

先日、ある中学生から「裾野市はお金がないの?」と聞かれ、ハツとしたことがありました。大人の事情や難しい言葉でごまかさず、事実をデータで、グラフで、自分の言葉で伝えることの大切さを改めて痛感しています。

今回の「あり方検討委員会」の報告もそうですが、議会の話はどうしても堅苦しくなりがちです。でも、そこには皆さんの暮らしに関わる重要なヒントがたくさん隠されています。

「広報さとり」も、もっと読みやすく、もっと身近に。来年も、皆さんの「くらしの相談担当者」として、アクセル全開で走り抜けます!

登山に温泉、図書館。暮らしのスポットをアップデート!

皆さまが普段使う施設や、趣味を楽しむ場所の「困りごと解決」も、予算決算委員会の大事なテーマです。今回の補正予算から、暮らしに直結する3つのトピックを紹介します。

▲愛鷹山登山口にトイレがつきます!

登山愛好家に朗報です! 愛鷹山登山口への仮設トイレ設置に向けた予算が可決されました。近年、アウトドアブームで登山者が増えています。観光客にとっても、地元の方にとっても、山がもっと親しみやすい場所になります。

☪「ふじの湯」の露天風呂、直します

市民の癒やしの場「ヘルシーパーク裾野(ふじの湯)」。露天風呂の熱交換器配管で水漏れの可能性が見つかり、その修繕費用が計上されました。「せっかくの温泉、万全の状態で楽しみたい!」そんな利用者の声に応え、施設を長持ちさせるための大切なメンテナンスです。

📖 図書館・福祉会館も体制整備

鈴木図書館や生涯学習センターの運営業務委託についても議論されました。今後、業務をまとめて委託する「包括管理」への移行を見据えつつ、「サービスが低下しないか?」「割高にならないか?」といった点を厳しくチェック。市側からは「市民サービスへの影響はない」「適正な品質を確保する」との答弁がありました。便利さはそのままに、運営の効率化を図っていきます。



「ふるさと納税体験返礼:爆破体験」